

月刊 ととろ

独立行政法人国立病院機構
いわき病院

第227号

令和5年9・10月発行

National Hospital Organization Iwaki National Hospital

信条

- ◆ 患者さま本位の医療を行います
- ◆ 患者さま及び家族の生活を大事にします
- ◆ 科学的根拠に基づいた質の高い医療を提供します



着任のご挨拶

はじめまして。9月1日付で院長を拝命いたしました石井亜紀子と申します。前院長の吉沢先生は筑波大の7年先輩です。両親の仕事の関係で北海道、九州を経て、筑波大で学生生活と医師としての研修生活を送りました。研修3年目には日立総合病院に勤務しました。

国立精神・神経医療研究センターで筋ジストロフィーの遺伝子治療を研究テーマに大学院生活を送り、1998年にはアメリカカリフォルニア州のカリフォルニア大学デービス校で研究を行いました。その後つくば双愛病院神経内科部長となり、2005年から筑波大学医学医療系神経内科学講師として、主に筋生検や神経生検などを中心に行っておりました。実は、研修医の4年目から留学までは筑波大学からいわき市の松尾病院に週1回派遣されておりましたので、前院長の吉沢先生からいわき病院のお話をいただいた時には大変懐かしく、いわきとのご縁を感じました。

専門分野は筋ジストロフィー、神経免疫疾患、神経難病一般ですので、当院でも今までの経験を活かしてまいりたいと存じます。

患者さんやそのご家族の幸せのために、病院の機能維持、特に職員の健康や健全経営にも心を配っていきたいと考えております。

何卒よろしくお願ひ申し上げます。

院長：石井 亜紀子

オンライン療育

いわき病院では、1年に1回、患者さんがいつもと違う体験ができるようにと、外出行事や院内レクリエーションなどが行われてきました。

しかし、新型コロナウイルスの影響で院外に出ることができなくなり、体験教室として染め物や写真館などのイベントを行ってきましたが、今年度は、時代の流れに乗って、オンライン療育を行うことになりました。

東北の各病院とオンラインを通して、一緒に療育を楽しむことにしました。テレビ画面を通して、他の病院とつながり、お互いの自己紹介やゲーム、楽器あそびをしたりと、一緒に楽しい時間を過ごしました。なかなか他の病院のスタッフや患者さんと接する機会が無いため、とても貴重な体験をする事ができました。

これからも、患者さんの生活に少しでも笑顔の時間が増えるように寄り添っていきたいと思います。

療育指導室 保育士：矢内 直美



令和5年度医療安全相互チェックを終えて

9月29日（金）に七尾病院（石川県）、東長野病院（長野県）、いわき病院の3施設においてオンラインで医療安全相互チェックが行われました。

医療安全相互チェックは「病院間で意見交換及び評価を実施し、医療安全対策の標準化を推進するとともに、医療安全の質の向上と均てん化を図ること」を目的としています。

今回、七尾病院の安全対策について、東長野病院がチェックを行い、いわき病院は、幹事病院として、3施設と、東海北陸グループ、北海道東北グループと連絡・調整を図る役割を担いました。初めてグループを超えての実施に、調整役として不手際がないようにしなければならないと緊張しましたが、何とか無事に役割遂行することができました。グループを超えると自己評価方法、自施設の紹介など今まで経験したことがなかった方法で行われていることを知り、大変参考になりました。

七尾病院は、40台以上の人工呼吸器が稼働しており、新型コロナウイルス感染症対策により、病院の戸を閉めていたことでアラームが聞こえにくく対応に苦慮したこと、骨折ハイリスク患者を多職種で抽出し、骨折防止に取り組んでいるなど説明がありました。同規模病院でもあるため、活発なディスカッションが行われました。

引き続き、安全な医療を提供するために各部署の皆さんのご協力得て、次年度に備えていきたいと思えます。どうぞ、よろしくお願いいたします。

医療安全管理係長：佐藤 志奈子



